委員長からのメールです

明日へつなぐ「福興市」と「語り部」

春の活動へ南三陸町を訪ねた

支部強化委員会委員長　白石良二

「明けましておめでとうございます」が、適切な新年のご挨拶なのかわかりませんが3・11の東日本大震災という未曽有の震災が明けたところです。私は支部強化委員長として、また、ボランティア隊の隊長としてもこの震災にはたくさんのことで携わる機会を与えられました。

11月に最終のボランティア隊を派遣し一旦休止しています。今後、3月の再開からはどんな形で継続していくのか、どの地域が良いのか展開の方向性を探しに南三陸町を訪問してきました。そこでは、南三陸町を拠点に自治体や地元住民と共に長期的ビジョンを見据えた活動をする社会貢献共同体ユナイテッド・アースに話を聞くことができました。またガイアシステムの辻さんから「南三陸の福興市を視察していただくことで今後のボランティア派遣隊のプラスになります」と誘われていました。福興市とは月に一度開かれる復興への市場のことです。

南三陸町の「福興市」で歌うコーラスグループ（円内）白石委員長

11月26日に現地入りしさっそく南三陸町を見て回りましたが、一部を除き民家があった形跡の土台が無数にあるだけでした。3・11の震災の映像も見ていきましたが16mという津波のすごさをまざまざと思い知らされた感じです。

TUTAYAのポイント分で建てた児童館や鉄骨しかない防災庁舎も見ました。そこで震災前は南三陸町観光協会の「地域ガイド」として活動されていた「語り部」メンバー約10人のうち、鴻巣さんと及川さん、お2人の「語り部」のお話を聞くことができました。「語り部」のメンバーは3・11に何が起きたのかを「後世に語り継ぐこと」を使命としています。女性の及川さんは涙を流しながら話をされていました。

27日夜には福興市のボランティアのミーティングにも参加しました。日遊協として活動の方向性を探しに来ましたと挨拶をさせていただくと拍手と共に「私たちと一緒にやりましょう」と声がすぐに飛んできました。担当別に5～6人に分かれ真剣に翌日開かれる福興市の成功を願い話し合いを重ねていきました。4月から始まった福興市も今回で8回目。最初は20店舗も今では60店舗以上が参加しその半分以上が地元の店ができるようになったそうです。南三陸町の復興を願い、町の商人たちが賑やかに楽しくお店を開く福興市。

11月27日は快晴。ベイサイドアリーナに集合。「語り部」ブースで多くの話を聞きました。感じたことは支援への感謝と震災を忘れないでくださいという言葉でした。この場を離れると忘れてしまう感覚を彼らは感じているのだろう。私も伝える側として被災地、被災者支援の「今」を訴えていきたいと思いました。

ボランティアの内容もキッズサポート、コミュニティーサポート、漁業支援、福興市だけに絞ったボランティアなど地域の住民に寄り添う支援ができると感じました。また春から始まるボランティア派遣に、会員の皆様の協力をよろしくお願い致します。